

平成30年度 奈良大学附属高等学校 学校評価総括表

No1

学校運営方針	学園創立100周年に向け、高大接続を中心に据え、安定と存続を念頭におきながら一人ひとりを大切にしながら確かな教育を実践する学校をめざすとともに、『学校経営グランドデザイン』を基盤にし、『CHALLENGE』を合言葉として、「求める生徒像」を共有しながら組織の一員としての自覚と責任と誇りをもって教育活動を推進する。		総合評価 B
昨年度までの成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>◆成果 これまで本校では、『建学の精神』を体するとともに不易と流行を心得、充実した施設設備を最大限に活用して、特進、文理、標準それぞれのコースの生徒の実態を見据えながら創造的で独創的な取組を重ねてきた。 「生徒一人ひとりを大切にしている学校」、「部活動や国際交流が盛んな学校」、「基本的生活習慣が身についた生徒が多い学校」というイメージの定着と各種の広報活動が奏功し、少子化傾向が進行する中にあっても募集人員を確保している。</p> <p>◆課題 教員はそれぞれの力量を発揮して教育実践に勤しんでいる。 学校としてめざす方向性(「めざす学校像」「めざす教師像」「求める生徒像」)を共有することにより「組織」としての協働意識も定着しつつある。 生徒は真面目で規範意識に基づいた行動をとることができる。 ただ、成功体験に乏しく自尊心をもちない生徒や特別な支援が必要な生徒などの増加に伴い、学校全体としての共通理解に加えて組織的・計画的な取組が求められる。</p>	<p>1 学校経営目標の実現</p> <p>(1)豊かな人間性を養う教育(德育)の推進</p> <p>(2)確かな学力を養う教育(知育)の推進</p> <p>(3)健全な精神と健康を養う教育(体育)の推進</p> <p>2 外部との連携及び情報発信の充実</p> <p>3 学校改善のための継続的かつ創造的な取組</p>	<p>○自律自誓の精神を涵養する ・自己の言動への責任を自覚させる。 ・自己を律し、課題を解決する習慣と努力を促す。 ・自らを省みる時間を大切にすることで、自律自誓の精神を養う。</p> <p>○総合的な人間力を育成する ・人権尊重の精神と生命への畏敬の念を深める。 ・自分だけでなく他者をも思いやり尊重する態度と他者と協調する態度を身につけさせる。 ・キャリア教育や社会貢献活動等とおして社会の一員であることを自覚させ、自尊感情を高める。</p> <p>○生徒と授業を大切にする ・授業で勝負する姿勢を堅持し、生徒一人ひとりと向き合う。 ・授業研究に徹し、生徒の心に火をつけるような授業を創造する。 ・生徒が自発的意欲的に学習に取り組むような指導を心がける。 ・主体的・対話的で深い学びやICT活用などの授業開発に取り組む。 ・アンケート等により授業を評価し、授業力と資質の向上に努める。</p> <p>○基本的生活習慣を確立させる ・食事、運動、睡眠などの基本的生活習慣を重視する。 ・敬意と親愛と感謝をこめた明るい挨拶を心がける。 ・凡事徹底を図るとともに、規範意識の向上に努める。 ・健康を保持し、危機回避能力を身につける。 ・いじめを許さない気風を醸成する。 ・部活動や体育の授業だけではなく、自らの生活の中に体力向上をめざした運動の習慣を確立させる。 ・式典時の校歌斉唱や部活動応援などとおして学校への帰属意識や愛校心を培うとともに、奈良大学附属高校生としての誇りと自覚を高める。</p> <p>○「地域と共にある学校づくり」を推進し、地域行事への参加や諸機関・施設との連携を促進する。 ○ホームページやオープンキャンパスなどの充実及び学校行事等の積極的な報道提供などにより、中学生やその保護者及び広く県民に対し本校の魅力を発信することで、効率的・効果的な広報活動を推進する。</p> <p>○生徒・保護者・教職員及び法人関係者が一体となった学校評価に取り組む。 ○月1回の「理事長・高校協議会」を更に充実させ、学校改善へとつなげていく。 ○学校改善に資するべく、企画委員に対して『SMAP(School Management Appraisal Plan)』の作成を求める。</p>	

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題	
総務部	校内美化	校舎を美しく保つ。	中学生の模擬試験会場に設定されることが多いことから、生徒募集につながることを強く意識する。水曜・金曜のHR教室以外の場所の清掃をHR担任と学年係が連携して組織的に行う。前年度のほうきの使い方が乱暴だったので、掃除用具を丁寧に使うように指導するとともに、HR教室を美しく保つように指導する。	C	C	ほうきの破損や不足があり、補充したケースが3回あった。水曜・金曜の教室外の清掃は浸透してきているが、予備教室に教材を放置するケースが目立った。	
	B棟教室の統一化	B棟すべての教室を同じ条件にする。	可燃物・不燃物・ペットボトル用のごみ箱は同じものを設置済みであるが、傘立てとして大型ゴミ箱を設置してあるHR教室もあるので、改善する。	D	D	C	高校入試の際、予備教室に傘立てが無かったため、急遽、ごみ箱で対応した。予備教室にある旧の机・椅子にゆがみが多くみられ、高校入試の際、旧の物の中で修繕し対応した。
			予備教室の机・椅子を新しいものに入れ替える。	D			
	防災	防災意識の向上を図る。	奈良県のシェイクアウト行動と連動して、防災訓練を行うだけでなく、その質を高める。防災設備や行動についての知識を高める。有事の際、避難所になることを強く意識し、準備をする。	B	B	奈良県のシェイクアウト行動と連動して、地震火災災害を想定した防災訓練を実施することができた。本校が第1次避難場所ではなく、行政の指導の下、近隣施設に避難しなければならないことを意識づけることができた。	
山陵祭 (文化祭・体育祭)	生徒が活躍することができる環境を設営する。	生徒会指導部・保健体育部をはじめとする各部と連携し、準備や片づけを効果的に行う。	C	C	文化祭のエコステーションの取り組みにおいて、破損したビン容器と食用油の回収に不都合が生じたので、次年度はビンでの販売を取りやめ、食用油については適切な処理方法を徹底する。		
教務部	教育課程に関する取組	次期学習指導要領と本校の教育課程の変更に関する研修ならびに研究を行う。	定期的カリキュラム委員会を開催する。	B	B	B	県主催の研修等に参加しながら、本校の新カリキュラムに向けた協議を始めている。教科横断的なカリキュラムマネジメントが必要となる。
			県の主催する次期学習指導要領に関する研修等への積極的参加を促す。	A			
	授業改善、指導力向上の推進	不断の教材研究と公開授業の実施及び参観により授業改善を実践する。	各教科で、学期に1回の公開研究授業を実施する。	A	B		教科や教員の個々の研修への参加を促している。またICT活用の進展により、授業改善や教員の資質向上につながっている。
			教科等研究会や県主催の研修会への積極的参加を促す。	B			
『シラバス』を発行する。	B						
ICT教育の推進	ICT活用による授業改善を行う。	各教科で、学期に1回の公開研究授業を実施する。	B	B	施設の整備とともに教員のICT活用が積極的に行われている。		
日常業務の円滑化	授業、教育課程、学校行事等が円滑に実施されるための調整・支援を行う。	『教務部年間実務表』に基づき業務をスムーズに計画・実施する。	B	B	部員や他の部・学年・コース等との連携により、概ね業務を適正に果たすことができた。一方で課題や検討事項を次年度につなげてゆく。		

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	挨拶や時間の厳守・正しい服装・規則正しい生活の確立を図る。	職員・生徒ともに互いに挨拶をし、明るい学校の雰囲気を作る。	C	C	進んで挨拶をする、正しい言葉遣いをする、時間を守る、美化に努める等の基本的な生活習慣の確立について、今年度は特に2学期の中間あたりから全体的に指導が行き届かなかったと感じる。服装・頭髪の緩やかな乱れがあり、また朝の遅刻の回数もこれまで以上に増え、また授業に遅れて入室する生徒も増加した。
			規則正しい生活習慣を確立することで、健康で充実した学校生活を送らせる。	C		
			月1回の服装頭髪指導を実施し、ルールを守ることで、規律の大切さを理解させる。	B		
			授業開始の時間や提出物の締切期限を厳守する態度を養う。	B		
	登下校及び校外指導、危機管理体制の整備	登下校指導の徹底を図る。生徒のあらゆる面での安全確保を推進する。	登下校を中心に交通安全指導を行うとともに、不審者等への対応も含め生徒の安全確保に努める。	C	B	自転車通学生の事故が多発し、命にかかわるような深刻な状況もあった。また自宅から最寄り駅間の通学途中で事故に遭った生徒もあり、自転車通学生のみならず生徒全体に対して交通安全指導を実施する必要性を感じた。ネットやSNS等の利用についてはKDDIから講師を招き、生徒および1年生保護者に講習会を実施した。
			交通安全講習を実施するなど、自転車や歩行中の注意、公共交通機関でのマナーを学ばせる。	B		
			避難訓練を実施するなど日頃から防災意識を高めておく。	B		
			携帯電話の使用について講習会を実施し、インターネットやSNSなどの危険性の周知徹底を図る。	A		
	教育相談体制の確立	不登校傾向にある生徒及び配慮を要する生徒への対応をきめ細かく行う。	担任、コース長、学年主任、養護教諭、教育相談担当者、カウンセラー等との連携を強化し情報を共有する。	A	A	昨年度同様にカウンセラーと定期的に連絡会を開催し、特に今年は教育相談の研修の場としても利用した。
	職員研修の実施	生徒指導力を高めるための研修を実施する。	各学期に1回のOJT(現職研修)を実施する。	A	A	県教委育委員会の生徒指導支援室から講師を招き研修を実施した。
人権教育部	人権教育	生命の尊重、人権の尊重を本校教育の中核に据え、教職員が豊かな人権感覚を身につける。	教員研修の実施と高人教、私学人推協主催の各種研修会に積極的に参加する。	B	B	教員研修により、部落問題等についての理解が深まった。校外研修へ、多くの先生の参加を促せた。
		ホームルーム指導等とおして生徒の人権意識を高める。	人権教育芸術鑑賞会を実施する。	B	B	公開HRを見据え、1年生のテーマを少し限定した。合同HRではなく、クラス単位での実施ができるように促したい。
			校内一斉の人権ホームルームを実施する。	C		
		進路指導部と連携し、進路保障への取組を推進する。	受験・就職選考にかかわって不適切な事象に対応する。	C	B	さらに進路指導部と連携する必要がある。昨年度確立した給付奨学生選考についての制度が、うまく機能していた。
			各種奨学金の紹介、受付及び指導を行う。	B		
生徒の自主活動を支援し、保護者への啓発活動を図る。	人権教育部の活動を促進し啓発文書を発行する。	C	C	定期啓發文書は発行してきたがさらに情報発信する必要がある。人権研究部部員の確保をしなければならない。		

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
保健体育部	保健	健全な精神と健康を養う教育の推進	基本的な生活習慣を確立させる指導を徹底し、ルールやマナー、時間を守るなど、規範意識の向上に努める。 他の部と連携をし、健康を保持し、危機回避能力を身につけさせる。保健の授業においても、健康に関する知識理解を深める指導を行う。	B	B	基本的な生活習慣については2学期以降からの改善を必要とする。次年度は更なる向上を図る。
	体育	基礎体力の向上	毎時の授業の中に体づくり運動を取り入れ、継続的に行っていく。	A	B	計画通りに実施できた。
		体操服のリニューアル	生徒へのアンケートや教員へのヒアリング、また、県内外を問わず他校の実態を知る。	C		体操服のリニューアルについての調査にとどまっている。
	部活動	部活動の活性化	部活動において積極的な指導を行い、競技力の向上と人間力向上に努める。また、他競技、他教員とのコミュニケーションを密にし、体育部活動総会を行う。	B	B	他競技との連携もよく行っていた結果として、これまでにない活動実績が出た。
進路指導部	奈良大学との連携	奈良大学との連携を強化し、魅力を発信する。	ガイダンスの充実、施設の共有及び特別進学制度の改善に向け、大学と協議を重ねる。	B	B	充実したガイダンスが実施できた。次年度は更なる連携を図り入学者増につなげたい。
	計画的・系統的な進路指導の推進	体系的な進路指導を推進する。	受験対策としての放課後の講習及び高3進学講習を継続して実施する。	B	B	計画通りに実施できた。
			校内・校外模試・小論文講習を企画・立案し、実施する。	A		進路実績を更に上乗せさせるためにも、講習の選択幅を広げることで、個々のニーズに応えていく。
			生徒の志望に応じた個別講習(個別指導)を実施する。	A		生徒が進路についてより深く考えられるように援助していく。
			進路説明会・進路別進学ガイダンスを計画・実施し、生徒の進路目標が明確になるように努める。	B		
	キャリア教育の推進	『キャリア教育計画表』を策定する。	肯定的自己理解と自尊感情を高める。健全な勤労観・職業観を育成する。社会で自立して生きていく力を身につける。	B	B	教員研修や個別の研修を充実させることによりキャリア教育をより浸透させていく。
	進路情報の迅速な発信	ペーパー資料だけでなく、ICTを活用した情報発信に努める。	クラッシーを有効利用する。	C	C	e-ポートフォリオも意識してより良い活用を検討する。
学力の3要素を意識した指導	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」等、学力の3要素を意識した指導に努める。	「探究活動」を積極的に導入する。	C	C	更なる導入に努める。	

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
文化図書部	図書	読書量を増やすため、読書を啓発する。	国語科と連携し、新入生を対象に「国語総合」のオリエンテーションを実施する。図書館の利用方法、読書の勧めを行う。	A	B	ポスター作成以外は、ほぼ達成できた。しかし、来館者数と貸出冊数は減少傾向にある。次年度は、読解力の向上と読書活動推進のために読後のポップ作製を促し、それを元にした学校長表彰を計画している。
			図書だよりを毎月発行し、読書活動を啓発する。図書委員にはお勧めの本の原稿を書かせる。	A		
			秋の読書週間には、図書委員に「読書啓発ポスター」を作成させ、各クラスに掲示する。	D		
			夏の読書感想文コンクールに出品する。	A		
		レファレンスに力を入れ、総合学習や授業の中で、参考資料として蔵書を活用していく。	利用者が求める資料を確実に探索・提供する準備を行う。	C	C	更に準備を進めていく。
			探究活動の一助となるような資料本の提示を行う。	C		
国際交流部	国際交流	現在の国際交流活動を継続するとともに、より活性化させていく。 外国との相互理解や友好親善に寄与する意識を持ち、自国についての理解を深め、多様な活動から経験や知識を深め、国際的リーダーとして成長できる人材の育成をめざす。	オーストラリア校の受け入れを継続し、説明会を開いて、ホストファミリーへのサポートを強める。	A	B	今年度姉妹校交換留学プログラムを初めて実施し、計画どおりに進めることができたが、改善すべき点なども多く見えてきたので、これらをよりよい方向に進めていきたい。
			オーストラリア以外の訪問団の受け入れも積極的に行う。	C		
			奈良ロータリークラブとの関係をさらに充実させ、交換留学制度を継続させる。	A		
			ディクソンカレッジ交換留学プログラムの説明会を開き、保護者への理解を求めるとともに、候補者決定後のサポート、受入生徒のサポートを徹底する。	A		
			SNSのページを作成し、交流活動の様子を随時更新し、発信していく。	C		

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
生徒会指導部	体験活動と社会貢献	保育体験活動の充実と社会貢献活動への積極的な参加を促す。	奈良大学附属幼稚園での保育体験活動を通して、自他を尊重し、主体的に行動する力を養う。	A	B	保育体験活動や社会福祉施設での交流を通して、他者に目を向ける意識が育った。より一層主体的で持続可能な活動となるよう取り組んでいきたい。
			地域貢献活動の積極的実施。	B		
			子ども服を難民キャンプへと送る活動を通して、世界を考える機会とする。	B		
			地域の社会福祉施設との交流を通して自他を尊重する力を養う。	A		
生徒の主体的活動の充実	行事や部活動への積極的参加	山陵祭(文化の部・体育の部)などの学校行事を生徒の運営にゆだね、自治活動の理解と自主性を育む。	山陵祭(文化の部・体育の部)などの学校行事を生徒の運営にゆだね、自治活動の理解と自主性を育む。	B	B	学校行事は生徒会中心に運営され、ある程度生徒自身が主体性を持って取り組むことができた。また、クラブ活動を通じて、豊かな人間関係・協調性が育まれている。まだ不足しがちだと感じる。
			競技力向上・精神的成長へ向け、生徒に自信や誇りを抱かせる。	B		
			部活動を活性化させることにより、明るく健康的な雰囲気を作り、学校を元気あるものにする。	B		
	活発な委員会活動	生徒会役員と各委員会が連携をとりながら、各学期に一回以上の委員会活動に取り組む。	C	C	各委員会の取り組みは、不足していると感じている。	
入試・広報部	入学者数	募集定員の確保	推薦及び専願受験生の合計が募集定員の70%以上併願受験生の取り込み	C	C	15歳人口減少の中、全体の受験者数は増加したが、推薦・専願の対定員占有率は61.4%であり、定員の確保に不安を残している。
	入試関連行事	オープンキャンパス 参加者計500名以上	中学校、塾への事前案内及び周知徹底と動員要請ポスター等の掲示依頼、HPを通じた情報提供 PTA来校時に保護者に直接案内	B	B	B
		入試説明会 参加者計950名以上				
		個別相談会 参加者100組以上				
中学校PTA等 学校見学会	来校10校	県内各中学校に見学会の案内文書を送付する。	A	A	11校240名の参加があり、好評であった。今後も継続していきたい。(他に警報発令による中止が1校50名あり)	

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
情報部	公的デジタルデータ等の作成	事務職、教育職の仕事が滞りなく迅速に進められるように、デジタルデータの作成・管理を行う。	公的なデジタルデータ等の作成や配信が間違いの無いようにする。気象警報が心配される時期は一斉メールの配信に備え、早朝7時前から天気の確認。メール処理は勤務中は時間のある限り確認をし、夜は一応21時まで、休日は朝・昼・夜と最低でも3回は確認。データ処理はアクセスを使い、事務・入試・教育関係の仕事が滞らないよう常に気を配る。	A	A	具体的方策通り、滞りなく行うことが出来た。課題は教員でなく専任でシステム・エンジニア的な方の常駐が必要。
	各行事における準備・進行	大小さまざまな行事や先生方個々のICT機器を使つての授業など、あらゆる催しに対応する。	ICT機器を使いプレゼンテーションをすることが近年増えたので、パソコン等の機器のメンテナンス、催しの内容により必ずリハーサルを行う。必要な機器を事前に調べ、不足する場合は購入を依頼する。視聴覚室は常に清掃し、学校見学にも気をつかう。	A	A	大小様々なイベントに対応すべく、日々奔走した。必要な機材は整えつつあるが、既存の機器の対応年数も限界にきている。デジタルの機器を今後揃えていかなければならない。
第1学年	学校生活と自己の確立	一人ひとりを大切にしたい生徒理解に努める。 教員と生徒のコミュニケーションを通して信頼関係を構築し、生徒支援を充実させる。また、学校生活、教科指導、部活動等全ての場面で人間教育を実践する。	学期に数回、二者面談を行う。(状況により)家庭訪問の実施や、保護者の来校を促す。挨拶を大切に、日々声掛けを行う。教科担当者会議を通じて配慮を要する生徒の理解を周知するなど、教員の意思統一を行う。スクールカウンセラーとの連携、教育相談の充実を通じて心身の問題等を抱える生徒への支援を行う。教師自身が目標を持ち、熱意をもって生徒と接し、生徒との約束をしっかり守る。教材研究や、その他生徒指導や進路指導などについて、絶えず研究と修養を重ね、教師としてのスキルアップを図る。	A	A	二者面談に関しては、今年度より設けられた、4月の面談期間などの利用で、生徒理解が学校運営と結びついた良いケースとなった。今後も、より一層、生徒理解を深めていけるよう。学年だけでなく、学校運営を創意工夫していきたい。
	文武において精一杯取り組む生徒の育成	全ての生徒が学習する楽しさや意義を感じ努力できるような指導、環境づくりを行う。また、部活動において積極的な指導を行い、競技力の向上と人間力向上を図る。	いわゆる、アクティブラーニングの手法を用いて授業への興味付けを図り、やる気をおこさせ、小テストや課題をこなすことで学力向上を目指す。進学講習において、英・国・数の基礎科目に加えて化・物・生、数学応用科目を開講し、標準コースと共に生徒に学習機会を提供する。積極的なクラブ活動での指導を推進する。	A	A	WiFi教室などの活用で生徒だけでなく、教員も学ぶ良い機会が増えた。よりよい授業を常に行うことができるよう学年運営に務めていきたい。
	進路実現	奈良大学への進学を増やすとともに、早い時期から大学入試を意識させ、生徒の進路目標を達成する	総合学習、オープンキャンパス、奈良大学ガイダンスや奈良大学で行われる諸行事を通して、奈良大学の魅力に触れ、さらに事前・事後指導により定着させる。授業・進学講習を通して学力を定着させる。授業などでの課題発表、プレゼンテーションなどを通して、自己の意見を述べる機会を設ける。担任、コース長による面接指導を行う。	B	B	奈良大学との連携については総合的な学習の時間を活用してもっと活性化させていくべきである。 また、Eポートフォリオへの取り組みは教員も含めもっと積極性が必要である。

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
第2学年	人権教育	生徒の人権感覚を育み、豊かな人間性を身につけさせる。	校内一斉人権HRを実施する。 人権教育講演会を実施する。 在日外国人問題に関するHRを実施する。 オーストラリアを題材に、先住民の歴史に関するHRを実施する。	A	A	計画通り実施をすることはできたが、2022年度に向けて学年である程度統一したものを作成していく必要がある。
	進路指導	キャリア教育を通じて、早期からそれぞれの生徒に応じた進路指導をきめ細かく行う。	ICT活用教育を積極的に推進し、生徒が自発的意欲的に取り組む意識づけを行う。 総合学習での奈良大学利用や、三年時にガイダンスを実施、ほか、オープンキャンパス等生徒だけでなく教員も参加する。 各コース、進路に応じた進学講習や小論文講習を実施する。	A	A	
		優秀な生徒を奈良大学へ進学させるとともに、同大学への進学者数も毎年増やす。		A		
		奈良大学との連携を深めるために、ガイダンスも含め、我々教員が奈良大学の魅力を知る機会を増やす。		A		
	生徒指導	社会に生きる一人としての自覚をもたせる。	朝学習や遅刻指導をとおして規律を守り、かつ主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。 校歌指導により、自尊感情を高め、本校生としての誇りと自覚をもつ。 学校生活において生徒だけでなく、教員も明るい挨拶を心がける。	B	B	放課後の遅刻指導がおざなりとなっていた。3年に向けて、進路を見据えた学校生活を送る声掛けをしていく。
		自主自律の精神をもつ生徒の育成をする。		B		
		学年をとおし、一人一人に配慮したきめ細やかな指導を実践する。		A		
	学校運営	学校行事や特別活動も含め、日々の学校生活を円滑に運営していくため、各関係各部と連携を密にし、学年業務を運営する。	Classiの活用により、情報を迅速に共有し、業務を円滑に進める。 学年主任会を実施し、各行事を含め次年度への改善につなげる。	A	A	生徒だけでなく、保護者の方にもClassiを開いてもらう機会を増やさなくてはいけない。
引継ぎも含め、他学年との連携を強める。		A				

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題	
第3学年	人権教育	生徒の人権感覚を育み、豊かな人間性を身につけさせる。	校内一斉人権HRを実施する。 人権教育講演会を実施する。 HRにて、近畿統一用紙の意義を通じて、進路と人権を考える。 ネットリテラシーに触れ、知識基盤社会を生き抜く人材を育成する。 人権教育は日常的であるべきこと。生徒と触れ合うだけでなく、教師間同士でも高めあう。	A	A	計画通り実施をすることができた。卒業後に社会に巣立つ生徒もいることから、就職や結婚における差別、同和問題も取り扱い、充実した人権教育を展開できた。	
	進路指導	キャリア教育を通じて、早期からそれぞれの生徒に応じた進路指導をきめ細かく行う。	ICT活用教育を積極的に推進し、生徒が自発的意欲的に取り組む意識づけを行う。 総合学習での奈良大学利用や、三年時のガイダンス、オープンキャンパスなどには生徒だけでなく教員も参加する。 各コース、進路に応じた進学講習、小論文講習、TOEIC講習を実施する。 キャリア教育は日常的であるべきこと。生徒と触れ合うだけでなく、教師間同士でも高めあう。	B	A	各担任の先生を中心に、それぞれの生徒に応じたきめ細かな進路指導を実施した。しかし、大学定員厳格化の影響もあり、第一志望の大学に合格できない生徒が見られた。 授業に加え、進学講習、小論文講習、TOEIC講習を実施し、多くの学習機会を提供した。 奈良大学とは連携を密にしたことにより、本校の、これまで以上に優秀な生徒を多く進学させることができた。	
		優秀な生徒を奈良大学へ進学させるとともに、同大学への進学者数も毎年増やす。		A			
		奈良大学との連携を深めるために、ガイダンスも含め、我々教員が奈良大学の魅力を知る機会を増やす。		A			
	生徒指導	社会に生きる一人としての自覚をもたせる。	朝学習や遅刻指導をととして規律を守り、かつ主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。 校歌指導により、自尊感情を高め、本校生としての誇りと自覚を持たせる。 学校生活において生徒だけでなく、教員も明るい挨拶を心がける。	B	B		校歌指導を徹底したことにより、本校生としての誇りと自覚を持たせることができた。式典においては自発的に大きな声で校歌を斉唱するようになった。特に、卒業式での校歌斉唱はすばらしかった。 放課後の遅刻指導がおざなりとなっていたため、遅刻回数が前年度よりも増加した。
		自主自律の精神をもつ生徒の育成をする。		A			
		学年をとおり、一人一人に配慮したきめ細やかな指導を実践する。		A			
学校運営	学校行事等や特別活動も含め、日々の学校生活を円滑に運営していくため、各関係各部と連携を密にし、学年業務を運営する。	Classiの活用により、情報を迅速に共有し、業務を円滑に進める。学年主任会を実施し、各行事を含め次年度への改善につなげる。	B	B	保護者に対してClassiを十分に活用することができなかった。 各学年主任の3人で定期的に集まり、連携を密にした取り組みを行った。		
	引継ぎも含め、他学年との連携を強める。		A				

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題	
標準コース	健全な 学校生活を送る	自己理解と他者理解。心と体をコントロールする力を養う。	二者面談や対話を利用し、生徒が抱えているものを把握する。	B	B	二者面談をはじめ、生徒との対話に関しては、多くの場面で各先生方が意識して取り組んだ。ただ、人間関係のトラブルに関しては、なかなか根絶できず、悪化したケースも見られた。	
			生徒間のコミュニケーションが健全なものになるようにサポートする。	B			
	基礎学力の向上と 自主的に 取り組む姿勢	基礎学力を向上させ、常に自らの進路と向き合いながら学習する姿勢を養う。	調べ学習、グループ学習、発表させる授業を積極的に取り入れ、学習意欲を向上させる。	C	C		勉強する姿勢は、以前よりも改善はした。しかし、なかなか学力としては身につかず、特に低学力の生徒を伸ばすことに苦労した。
			読書の価値や社会状況の変動を把握することの重要性を自覚させる。	C			
	進路について 早い段階で 考えられる姿勢	進路決定のために必要な社会的知識を蓄積させる。	総合的な学習の時間、ホームルーム活動などを積極的に利用する。	A	B		ホームルームなどで積極的に進路指導を中心とした取り組みを行った。学習面だけでなく、論文対策や進路決定のための意識づけなども積極的に行った。
			奈良大ガイダンス、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。	B			
文理コース	生徒指導	生徒の多様性に応じた指導を 実践し、規範意識の構築と、他 者理解や思いやりのある生徒 育成を行う。	二・三者面談や家庭訪問を通じて生徒理解に努める。	B	B	面談や、生徒指導部・養護教諭との連携により生徒の多様性を把握し、それに沿った指導を行った。問題を抱えた生徒へは家庭訪問や教育相談会で積極的に対応し、大きな問題等起こることなく年度を終えることができた。言葉遣いなどに現れる社会性の育成について、今後も継続的に取り組んでいく。	
			スクールカウンセラーと連携を図り、教育相談会等を通じて心身に問題を抱える生徒への支援を行う。	A			
			TPOをわきまえた言葉遣いの指導をする。また、清掃活動や防犯教育を積極的に利用する。	B			
	学習指導	基礎学力を確立させ、継続した学習により学力を向上させる。	通常授業において、小テストや演習を通じて理解を深め、運用能力を養う。	B	B	生徒の適正に応じた教科指導は行っていた。学力伸長、進路実現のための進学講習も積極的に行った。学力向上に結び付くためには、自学自習の習慣化も必要であると感じる。	
			進学講習において、英語、国語、数学の基礎科目に加え、理科や数学応用科目を開講し、標準コースと共に学力向上の機会を提供する。	A			
	進路指導	奈良大学への進学者を増やすとともに、進学実績の向上、生徒の適性に 応じた進路実現を目指す。	奈良大学ガイダンスや総合学習を通じて進学への意識を高め、早期に進路目標を持つための指導を行う。	B	B	進路実現のためには、生徒が目標を掲げ、モチベートされ、競争のある中で継続した努力が必要であると考え。本校生徒の適性に合った指導は常々行ってき、そのうえで進路実績を向上させるためにコース・学校として取り組むべきことは多いと感じる。	
			進学講習や小論文講習、各種検定試験に取り組む生徒を増やし、入学試験に備える。	C			
			生徒の適性・学力・志望に応じて個別指導を行う。	B			

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
特進コース	学習指導	生徒一人ひとりの夢の実現に向けて尽力し、進学実績の向上を図る。	個々の生徒に関する情報を、コース会議・教科担当者会議を通じて共有し、日々の教育活動に活かす。	B	B	生徒たちの学習状況や進路希望等について、日常的に情報交換することにより、必要に応じたきめ細やかな指導を行うことができた。
			生徒の学力・志望に応じて個別指導を行う。	B		
			クラス編成の仕方を再考し、生徒の力を伸ばすためにできるだけ効率のよい方策を考え、実施する。	B		
			コース集会を学期に一度行い、受験勉強に対するモチベーションのアップを図る。	B		
	生徒指導	配慮の必要な生徒に対して、養護教諭・カウンセラーとも連携しながらサポートする。	教科担当者会議・コース会議を随時開き、情報交換することによって、教員間で共通理解・共通認識を持つように努める。	B	B	会議によって共有した情報に基づき、カウンセラーからの助言も取り入れつつ、教員が一丸となって、生徒のサポートに努めた。
	国際交流	オーストラリア語学研修旅行を充実させることにより、グローバルな人材の育成をめざす。	「探究活動」の一環として、オーストラリアについてグループごとに発表させ、知識・情報の共有を図る。	C	B	今年度は奈良市・キャンベラ市姉妹都市提携25周年を迎え、語学研修旅行における日豪友好交流イベントでは、生徒たちが最高のパフォーマンスで盛り上げ、国際交流の一翼を担った。事前学習として、オーストラリアについての探究活動の時間があまり取れなかったこと、気象警報発令のため外国人講師による英会話授業が実施できなかったことは、課題として残った。
			研修旅行委員を中心に、「キャンベラ・奈良キャンドルフェスティバル」での発表内容を検討し、ホストファミリーへの感謝の意を伝えることができるよう、パフォーマンスの練習を行う。	A		
夏期休業中に、外国人講師を招いて、研修旅行を想定した英会話の授業を実施する。			D			
研修旅行後の事後指導として、各自のテーマに基づいた「レポート集」を作成する。			B			

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している